

「夜間中学」山田洋次監督に聞く

写真は朝日 28 日朝刊大阪市内版。興味深いインタビューであり、大阪の夜間中学の統廃合案を中心に、山田洋次監督の発言を紹介したい。

(今回の連載の舞台である大阪市立天王寺中学校夜間学級にもかつて通われた)

大阪の天王寺中は「オモニの学校」と言われるぐらい在日(コリアン)の年配の女性が多かった。みんな一生懸命勉強してた。オモニたちと話をするのはとても楽しかったな。例えばこんなことを覚えています。夜の給食の時間、牛乳と袋に入ったパンが1個でずいぶん貧弱だなと思った。東京の学校では牛乳があってライスカレーがあって、果物、サラダもつく。僕がそれを言ったら、オモニたちが「先生、なんでそんな差があるんや」って聞く。先生が困って予算がちゃうからかな」と答えると、「不公平やんか」。じゃあどうすればいいんだ、どこにお願いをすればいいんだと議論が始まる。僕、感心したな。この人たちは我慢して諦めることはしない。要求すべきものを要求しなきゃ生きていけないんだっていうね。

(外国出身の人、不登校の子どもが増えていることもあり、近ごろは文部科学省が増設を促しています)

その話を聞いたときは驚きましたね。夜間中学に行きたいと思う人にとっては大変な朗報じゃない?

(その流れとは逆に、大阪市教育委員会が夜間中学を統廃合によって 24 年から 4 校を 3 校に減らすことを計画しています。外国出身の生徒が増え、日本語を指導できる教員が足りないことが理由の一つだと。天王寺、文の里の 2 校を廃校にし、新たにできる「不登校特例校」に夜間中学 1 校を併設する計画です)

夜間中学には仕事を抱えながら通う人がいっぱいいるし、家族のいる人もいる。だから、近くにあるというのが絶対的に大事じゃないかな。簡単に統廃合なんかしてはいけないと思います。生徒のためを思えば数がたくさんなきゃいけないんです、夜間中学は。日本語が苦手な外国人が増えていく現実があれば、日本語の教師を増やすべきです。この国がそういう優しい国であってほしい。

(夜間中学を含めて、いまの学校教育にどんなことを思いますか)

時代遅れの言い分かも知れないけど、子どもは原則的には公立の、つまり家の近くの小中学校に通うべきだと思う。勉強のできる子や裕福な子が私立に行き同じような階層の子ばかりが同じ高校に入ること、子どもがあまり幸せになっていないなんじゃないか。人間は本当に多様な存在なんだ。環境もキャラクターも頭の中身もハートも多様。それを学ぶ機会を奪うってことになるんじゃないでしょうかね。



(2022年3月31日)